たか1組劇場、開演！仲間とつくったお話

年長 たか1組

クラスでくらす

「時間になったよ～」。子ども達の声が聞こえてきます。2月上旬に担任から「たか1組の皆で子ども達だけの劇団を作ってみてはどう？」と提案をしました。メンバーも内容も自分達で決めていきます。今までの幼稚園の生活の中で「こんなふうになりたい」「やってみたい」という思いの実現に向けて、一人ひとりが試行錯誤し、時には仲間と協力しあい育ってきました。これまでに経験してきたことを組み合わせて「皆でやると楽しい」という実感も得ています。その姿を見ているからこそ、先の提案を行いました。子ども達はそれぞれ意見や考えを言い合い、最終的に4つの劇団グループができました。「自分でやってみたい」と決めて集まったので、グループのメンバーは、必ずしも全員が日頃からよく関わっている仲間とは限りません。

この劇は、決まった台詞や動きを子ども達が覚えていくのではなく、自分達で考えていく【世界に一つしかない話】です。子ども達にとっては自慢のお話でもあります。勿論、「はじめ」や「おわり」等の取り決めはありますが、かなりの部分を子ども達が話し合って決めていきます。時には、思いがすれ違ったり、やろうする事にズレが生じたりもします。大人の助けが必要な時もありますが、この頃になると自分達の力で何とか解決していく姿もみられます。例えば、タイミングが合わずなかなか登場しない相手に対し、最初は「ちょっとー早く出てきてよ」と台詞より大きな声掛けをしていたのですが、続けていくうちに手招きに変わり、さらには「あれ？○○はどうしたのかな。いないのかな」と台詞みたいに話すことで相手に合図を送ったり、近くにいる仲間が背を押したりするようになりました。

このように劇中で臨機応変に対応する姿は随所で見られました。相手をよく見ていて、いつもと違った時に咄嗟に受け応えをしていました。また、全体をよく見ていて、道具が倒れたらさりげなく直したり、登場人物たちが全員ステージにいるのか、並んだのか、確認していることもありました。監督みたいに全体を気にかけ、自ら動くなど、それぞれが自分で判断して、必要なことを感じ取り、役割を果たすようになってきました。

そうは言っても、時には葛藤も表れます。話を展開させるのが楽しくなってくると、「もっと練習したい」「ピンクバッジに見せたい」という声があがる一方で、「鬼ごっこしたい」「疲れたな…」「でも皆はやるって言うからどうしよう」と複雑な気持ちを体験します。子ども達は、仲間との楽しさや、「出来る」という自信、「やりとげる」という意思を継続させつつ、その時々の思いや感情に自分で折り合いをつけていきました。

そして、3月1日、たか1組劇場は開演しました。「あ～疲れた。ちょー緊張した。皆楽しかったかな？」。こんな声が聞こえてきました。さらに数日後には「～の劇に出たいなー」「○○の役、やっても良いかな？」。他の劇を見て刺激され、やってみたくなったようです。発表したグループの子が「～したら出てきて」「ここは皆で出るよ」と教えてもいましたが、話の見せ場や面白い箇所は演者も見る側も同じように感じるのか、最初から呼吸が合っていて、直ぐに馴染んで演じていきました。年少組や年中組にも声を掛けて、劇場は続いていきました。

子ども達は劇を通して、それらしく声を出したり演じたりする事や、劇中でのやり取りを楽しむ事に浸っていたことでしょう。これまでも忍者や警察やハンターになったりして、イメージをもちながら遊びを膨らませてきました。憧れの者など何にでも「なれる」今を、存分に満喫してほしいと願っています。（教諭・髙橋敬子）

しらうめようちえん

園だより

2021年度 第11号

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2022年3月10日発行
小平市小川町1－830

仲間と協働して発表をつくる

年長 たか2組

クラスでくらす

3月4日、たか2組の保育室で、自分たちが今まで取り組んできた遊びを発表し合いました。演目は、全部で6つです。

1年間継続して探究してきた「電車」、1学期そして1月から遊び続けてきた「ダンスショー」、2学期から技術を高めてきたコマ廻しにピタゴラスイッチのコースで挑戦する「コマのピタゴラスイッチ」、2月から夢中になってきたセロテープでのポケモン人形作りを発展させた「ポケモン劇」、11月の「こどもがつくる世界」から続いている学校の生徒たちを使った「人形劇」、そして自分たちでお話を作って演じる「動物劇」です。

今回の発表は、子どもたちがこれまで興味をもって向きあってきた内容から出発しました。自分たちで時間を決め、集まり進めていきます。その過程で、様々な問題も起きます。

「電車」は、劇にするために試行錯誤しましたが、見てくれた仲間からは、「遊んでいるようにしか見えないよ」と言われたこともあります。「ダンス」は、劇と比べると、振り付けを共有するということが難しく、バラバラになってしまうこともありました。「コマのピタゴラスイッチ」では、木材を用いてコースをつくる事自体に難しさがあります。さらに、どのようなコースにするのか、意見のぶつかり合いも沢山ありました。

子どもたちの興味から出発しており、登園してから数時間取り組んでいるグループもあります。それが1ヶ月も続くと、「飽きてしまった」ということも「ポケモン劇」ではありました。「人形劇」は、動画を撮影してみんなに見せるということでしたが、いざ撮影しようとすると緊張してしまい、なかなか取り組みが進まないということもありました。

「やりたい！」と思うことに実直に向かう子もいれば、「どうしよう……」と躊躇してしまう子もいます。でも、劇をやってみると今までにないほど楽しくて、笑顔が溢れている子たちもいました。担任から「やってみたら？」と勧められたことをきっかけに、「動物劇」が生まれました。

発表を迎えた日。子どもたちはドキドキしていたようです。ドキドキしながらも、みんなで乗り越え、終わった後、ある子は「今までにないほど楽しかった！」と充実した表情を見せてくれました。そこには、発表がうまくいった安堵や達成感に加え、発表に至るプロセスに、仲間と共に協力し、問題を乗り越えていった喜びがあったように感じています。（教諭・西井宏之）

「それ、いいね！」　年少 たんぽぽ組

Ａちゃんと Ｂちゃんは遊具をいっぱい並べて遊ぶことが好きです。いつも何かしら並べていますが、内容はいつも違います。ぬいぐるみ、お手玉、貝がら、積み木、布など保育室の方々にあるモノを必要な分、必要なだけ、これから遊びを繰り広げようとする場に持ち込みます。二人でじっくり時間をかけて並べている最中に「何をしているの？」と尋ねると、「たぬきさんのおうちを作っているの」「夜、みんなで寝ているところなの」「今、相談しているの」とその時、思い描いていることを話してくれます。

Ｃちゃんは他の子と３人でお出かけする準備をしていました。「お弁当は出来たわ」「シートも持ったよ」と声を掛け合っています。その時Ｃちゃんが「ダンボール、ない？」と保育者に聞いてきました。車に乗って出かけるイメージのようです。支度が整うと、それぞれダンボールの車に乗り、連なって出かけていきました。

Ｄちゃんは「ワニを作りたい」と相談に来ました。「いいね～、どんな箱で作る？」と材料棚を一緒にのぞき、箱探しをしました。Ｄちゃんが手に取ったのはパコパコ開くラップの箱でした。「横だけどいいや」とつぶやきが聞こえました。「ワニの口の開き方とは向きが違う」と感じたようです。イメージを確認しながら、箱に切り込みを入れる手助けをしました。作りながらワニのように口が開くか、何度も試していました。その後、「ごはんを食べさせよう」とワニの口の中にお手玉を入れたり、「ミルクを飲ませよう」と小さいほ乳瓶をくわえさせたり、他の子が作った空き箱の恐竜と闘わせたり、ワニのいろいろな場面を想像しながら遊びを展開させました。

毎日それぞれやりたいことを見つけて遊んでいる子どもたちですが、3学期は表現することを楽しんでいると感じます。モノを使って並べ方を工夫し世界観を表現したり、お面やその気になれるモノを身につけ、しぐさや動きを楽しんだり、作るモノもイメージに近づけるよう一手間加えてそれらしく表現したりしています。

そして以前と大きく違うのは、イメージを共有して「それ、いいね！」と一緒に面白がってくれる「仲間」が遊びの場にいることです。（教諭・阿部和香子）

「なりたいもの」になりきって　年少 すみれ組

「誰だ～俺の橋をガタゴトさせるのは」と叫ぶトロルを横目に、子どもたちが足早に橋を渡っていきます。他クラスの『３びきのやぎのがらがらどん』を見て「おもしろかった～」と帰ってくると、好きな大きさのがらがらどん（やぎ）のお面をかぶり、劇ごっこを始めました。もちろん、この時は怖いトロルになる子は誰もいませんでした。

繰り返し遊ぶ中で、「ネコのお面を作りたい」「ウサギがいい」と子どもたちから「なりたいもの」がでてくるようになりました。思い思いのお面ができると、さっそくかぶって橋を渡ってきます。がらがらどんに仲間が増えて、気がつくと橋には長～い行列ができています。

初めの頃は橋を渡ることを楽しんでいた子どもたちでしたが、やがて自分のなりたいものになり、四つで這ったり飛び跳ねたりして、その動物のイメージに合わせた動きやしぐさをするようになってきました。その子なりの表現が加わり、仲間に受け入れられている姿を見て、虫のペープサートで遊んでいた子どもたちも「それなら!!」とペープサートを手にして「ブ～ン、チックン、ガシガシ」と虫の特徴を捉えてトロルに立ち向かってきます。

このことがきっかけとなって、「ギラハノコギリクワガタ」「タガメ」「ゴジラ」…と次々とお気に入りの生きものになっていく子が増えました。「自分が一番強いぞ」と言わんばかりに体を動かして戦いに挑んでくるようになって、『がらがらどん』がさらにおもしろくなっていきました。トロルとやりとりをするようになると、自分たちが食べられないように考えて、「お菓子をあげる」と食べ物を持ってくる子や、「仲間になるね」と一緒にトロルになる子もでてきて、ストーリーにはないお話も楽しんでいます。

今までにもなりたいものになってきた子どもたちですが、『がらがらどん』ではお話の世界を仲間と一緒に楽しみました。劇のように役を演じるのではなく、好きなものになりきってイメージを膨らませながら動くことがおもしろく、自分なりの表現が言葉や動作としてでてくるようになりました。そのほかにも、仲間と一緒にこだわって作った食べものを使って、ケーキ屋さんやおすしやさんを自分たちで準備しています。また、お客さんにも食べてほしくて、色々なクラスに声をかけにいっている子どもたち。表現することが楽しくなってきました。（教諭・佐藤恵）

『トロルとけらい』の劇遊び　年中 ぞう組

３学期が始まってから続いている、劇の遊び。初めは『３びきのやぎのがらがらどん』のお話しが盛り上がり、お地蔵さんや猫など、何でも好きな役になって橋を渡っていました。それを繰り返すうちに、お面をかぶって役になることや、演じることに触れていきました。その後に遊び始めた『こすずめのぼうけん』のお話では、絵本を見ながら話の流れに沿って劇をするようになりました。その、物語に入り込んで演じている仲間の姿に刺激を受け、クラスの中で劇遊びに火がついていきました。多い時には一役に８人もいることもあり、動きやセリフを、友だちと息を合わせて一緒にやることを楽しんでいます。

また、ぞう組ではお話を自分なりにアレンジしたり、新しくお話を作ったりする姿が多くありました。そして、仲間の作ったお話を、子ども同士で教え合い覚えていき、仲間と演じて遊んでいます。その一つに『トロルとけらい』という劇があります。子どもたちは『おんどりとひとかけらのダイヤモンド』というお話の劇に出てくる、赤い帽子の家来の役が大好きです。その家来になって、『がらがらどん』のお話で遊んでいた時、「トロルと家来の劇にしようよ！」「ここ、家来の家っていうことは？」と話が盛り上がり、トロルと家来が宝を取り合うお話が出来上がりました。

さっそく劇にしてクラスタイムで披露したところ、この劇をやりたいという声が沢山あがって、今ではクラスで一番人気の劇となっています。家来が「ガチャ」と言いながらドアを開ける「ふり」や、ラストにトロルを背中から「ジョキッ」と剣で切る場面が、子どもたちのお気に入りです。何度も繰り返し遊んでいく中で、それぞれにお話のイメージが出来てきたようで、言い方や動きの表現が豊かになってきました。（教諭・細井佑香）